

21 間質性膀胱炎の初期症状に対する 漢方併用療法にて効果を示した 1 例

つくばウロケアクリニック

黄 鼎文

症例

38歳女性。過活動膀胱の診断で抗コリン薬内服中、頻尿と残尿感が増悪し、さらに疼痛を自覚したため202x年10月当院受診。併存疾患として、メニエール病と下痢型過敏性腸症候群がある。初回尿流量測定検査所見として、排尿量347.5ml, Qmax17.9ml/s, Qave11.4ml/s, 残尿量0mlであった。膀胱鏡検査でハンナ病変を認めなかった。尿細胞診はClass1であった。膀胱痛の自覚評価として、10点中3点であった。間質性膀胱炎・膀胱痛症候群の診断で、食事指導とともに、対症療法としてロキソプロフェンと猪苓湯合四物湯内服をはじめた。3週間内服加療にて自覚症状の改善を認め、現在漢方薬のみ治療を継続している。文献的考察を加え報告する。